

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	第3290400245号
法人名	サンキ・ウエルビィ 株式会社
事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム出雲
訪問調査日	平成 21 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 29 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	第32090400252号
法人名	サンキウエルビィ 株式会社
事業所名	サンキウエルビィ グループホーム出雲
所在地	島根県出雲市大社町北荒木1313番地 (電話) (0853) 53-8116

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市菟村町274-2		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	2009/9/

【情報提供票より】(21年 8月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)		
敷 金	有(135,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 22日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2		4 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科胃腸科 ・ 山本歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年、地域医療に尽力され、信頼されてきた法人が開設した小規模多機能事業所と併設したグループホームである。中国地方にいくつもの介護サービス事業所を抱えており、本部を中心に連携をとりながら、運営されている。職員育成に向けての教育システムも整えられており、職員の意識の高さやケアの方向性が共有されていると感じた。契約時に、事業所の意義や役割を説明し、家族の協力の必要性を十分に伝えており、家族も積極的に協力されている。管理者は認知症研修の講師資格を持ち、各所で講演経験があり、開設1年目でありながら、地域住民を集めて、認知症研修会を開催されるなど地域との交流も深められている。「事業所は家族であり、小さな社会でもある。喧嘩があつてあたりまえ、泣いたり、笑つたり自分の主張が出来る場所でありたい」という管理者の考えの下、利用者で町内会を作り、毎月交代で会長を決め、トラブルがあつても、みんなの話し合いで解決するといった画期的な取り組みがされている。

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めての外部評価であり、職員には評価の意義を説明している。自己評価は管理者が作成したものを基に、ミーティングで全職員の意見を聞いて仕上げた。出来あがつたものは全職員が確認している。時間をかけて全職員で自己評価にとりくむことが大切であり、評価結果については、項目ごとに全職員で話し合い、改善に向け具体案を検討することで、職員全体の意識あわせをされることを期待している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者や家族、地域の方にも参加頂き、活発な意見交換をしている。「どんな食事をしていいのか知りたい」との家族の声から、運営推進会議で、準備や食事風景も見てもらい試食会を行った。日常の様子をビデオ放映したりと趣向を凝らしている。運営推進会議メンバーである福祉委員を中心に、地域代表者らが橋渡しになり、行事参加や、住民対象の認知症研修会の開催など、積極的に取り組み、地域との交流を深めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>週1回程度は、面会に来られる家族が多く、来所の都度、状況報告を行っている。事業所で金銭管理をしている方もあり、出納帳に記録し、家族に確認して頂いている。遠方のご家族には月1回程度、帰省された際に来訪して頂いたり、職員が電話などで報告している。運営推進会議や事業所行事に家族が参加される機会も作り、家族との信頼関係の構築に努めている。苦情を頂いたことは、職員間で話し合い、運営推進会議でも報告し、その後の運営やサービスに反映させている。家族からの要望や依頼は、申し送りノートを使って、職員間で確実に伝達、共有している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の奉仕活動や行事に参加している。又、近隣商店を積極的に活用し理解を求めている。散歩の時に挨拶を交すようになってから、収穫された野菜を頂いたり、近隣の方と馴染みの関係を築き始めている。運営推進会議メンバーである地区の福祉委員の方の発案で、地域住民を集めて認知症研修会を開催したところ、多くの参加者があった。事業所の防災訓練にも地域の方に参加頂く予定であり、開所1年にして地域住民の理解と協力に支えられている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念や方針を大事にしている。開設後、利用者と職員が共に毎日笑顔で過ごせるように、スタッフで考えた、利用者と職員共通の「私たちの理念」がある。人には4つの幸せがあり、共に支え合い暮らしていくうえで大切なことを4つの言葉で示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念と共に、玄関やフロアに掲示されている。職員会議で唱和したり、折りに触れ、利用者とは話し、日々意識づけしている。家族、地域への言葉としての周知はこれからであるが、大事にすべきことは伝えられている。家族と過ごす時間の大切さを職員、家族が理解し、家族との外出や外泊、面会も多い。	○	契約時に事業所の役割や方針をしっかりと説明し、協力をお願いしている。自分達が大事にしている理念を言葉としても、家族や地域にも伝えて頂きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の奉仕活動や行事に参加している。又、近隣商店を積極的に活用し理解を求めている。散歩の時に挨拶を交すようになってから、収穫された野菜を頂いたり、近隣の方と馴染みの関係を築き始めている。運営推進会議メンバーである地区の福祉委員の方の発案で、地域住民を集めて認知症研修会を開催したところ、多くの参加者があった。事業所の防災訓練にも地域の方に参加頂く予定であり、開所1年にして地域住民の理解と協力を支えられている。	○	地域への活動報告を含め、広報誌などの配布や事業所に気軽に立ち寄って頂ける関係づくりを期待している。特に子供達との交流は喜ばれるのではないだろうか。折に触れ、事業所の実践を伝えていって頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価であり、職員には評価の意義を説明している。自己評価は管理者が作成したものを基に、ミーティングで全職員の意見を聞いて仕上げた。出来あがったものは全職員が確認している。	○	時間をかけて全職員で自己評価にとりくむことが大切です。定期的に日々のケアを振り返り、課題を明らかにしたり、職員の意識やスキルアップにつなげましょう。評価結果については、項目ごとに全職員で話し合い、改善に向け具体案を検討することで、職員全体の意識あわせをされることを期待しています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、地域の方にも参加頂き、活発な意見交換をしている。メンバー以外にも、交番や外注の配食業者の方等も参加されていた。「どんな食事をしていいのか知りたい」との家族の声から、運営推進会議で、準備や食事風景も見てもらい試食会を行った。日常の様子をビデオ放映したりと趣向を凝らしている。運営推進会議メンバーである福祉委員を中心に、地域代表者らが橋渡しになり、行事参加や、住民対象の認知症研修会の開催など、積極的に取り組み、地域との交流を深めている。	○	運営推進会議には、交代で一般職員も参加されると意識が高まり、サービス向上につながるのではないのでしょうか。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、ケースの相談や報告などで連絡をとり、アドバイスを頂いている。処遇困難ケースでは、市との連携により、問題を迅速に解決した。あんしん支援センターとも、利用者の窓口として、連携しながら協力を頂いている。事故報告は、市へは勿論、運営推進会議でもきちんと報告されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多い為、利用者の暮らしぶりや出納帳の報告は、直接会って話すことが多い。遠方のご家族には、月1回程度、帰省された際に来訪して頂いたり、職員が電話などで報告している。利用明細については毎月郵送している。	○	折角、広報誌が作られているので、運営推進会議参加者や利用者だけでなく、是非、家族や地域の方にも紹介しましょう。いずれは、広報誌の定期的な発行につなげて頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や事業所行事に家族が参加される機会も作り、家族との信頼関係の構築に努めている。苦情を頂いたことは、職員間で話し合い、運営推進会議でも報告し、その後の運営やサービスに反映させている。家族からの要望や依頼は、申し送りノートを使って、職員間で確実に伝達、共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員は、運営推進会議で報告したり、利用者にもあいさつをしている。家族の面会時に紹介することもある。離職については事業所としては特に報告していないが、利用者への影響は特にみられなかった。	○	新任職員の紹介だけでなく、職員の異動、離職についても利用者家族に報告しましょう。馴染みの職員の離職は、家族にとっても知っておきたいことです。広報誌の利用も有効的と思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての教育・研修システムが整えられており、経験に応じた研修が行われている。毎月、併設の小規模多機能事業所と一緒に内部研修も行っている。参加した研修については、資料や復命書を回覧するなどして、全職員が共有している。半年ごとに職員の個人目標を掲げ、施設長、管理者との個別面談や業務を通して指導や助言を行っている。ヒヤリハットを全職員で改めて検証する機会を設けている。		ヒヤリハットや事故報告書には、家族の誰に伝え、どのような反応であったかまでを記録するようにしましょう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地区のグループホーム連絡協議会に参加している。今後、勉強会があれば、一般職員も積極的に参加しようと考えている。芋煮会や音楽会など、市内の複数の事業所へ利用者と一緒に出席し、交流をはかっている。入居待機者については、緊急の場合、近隣の事業所に受け入れを打診するなど、事業所同士が連携しながら、利用希望者、家族を支援している。	○	今後は職員同士の親睦にも力を注がれ、一般職員も部会や勉強会に参加し、意見交換や実習などを通じてサービスの向上や職員の育成にも役立てて頂きたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに自宅に伺い、顔馴染みの関係を築いている。又、訪問した時に写真を撮らせてもらい、事前に利用者の顔がわかることで、他の職員も身近に感じ、初対面の雰囲気にならないよう工夫している。事前に見学に来たり、併設の通いサービスの利用から入所されたケースや、自分で申請に来られた方もあった。職員や利用者同士が馴染みの関係となり、穏やかで安心した生活が営まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「事業所は家族であり、小さな社会でもある。喧嘩があってもあたりまえ、泣いたり、笑ったり自分の主張が出来る場所でありたい」という管理者の考えの下、利用者で町内会を作り、毎月交代で会長を決め、トラブルがあっても、みんなの話し合いで解決している。居室には回覧版を回し、利用者同士が声をかけあうような環境づくりをしている。洗濯物は自分でたたまれる方が殆どである。掃除や調理も一緒にされる方が多い。裁縫の得意な方に協力してもらい、牛乳パックを使った足台を作り、利用者の足置きとして使っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりとゆっくり過ごす時間を作るように心掛け、大切にしている。利用者が口にされた思いは、そのままの言葉で記録し、職員の気づきは、その日の終礼で必ず報告し、記録カルテや連絡ノートに記載され、職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	折に触れ、利用者、家族の意見や要望を伺っている。日常の支援は、全職員で行うが、各利用者ごとに担当職員を決めており、担当者ケアマネを中心に、カンファレンスで利用者の情報交換を行い、日々のケアから、利用者が今、何を必要としているのかを全員で考え、計画を作成している。出来あがったものは本人にも説明し、納得の上、出来る方には自分で署名して頂くようにしている。家族には面会時や電話で説明し、同意を得た上で、コピーを渡している。	○	家族がプラン作成に参加していることを自覚できるような関わりを工夫しましょう。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には半年ごとに見直しをしているが、担当職員を中心に毎月のケアカンファレンスで話し合い、本人の状態や家族の希望の変化に応じて柔軟に見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力の必要性を十分説明されており、家族とのつながりが途切れないように支援している。受診の立会いや自宅への外泊、家族との外出など、家族は積極的に協力している。急な場合の医療機関への送迎は、職員が行うこともある。併設の小規模多機能事業所と連携し、利用者の状態に応じて、事業所を選択してもらっている。利用者や家族の立場になって支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、入居前から相談に行き、看護職員が、日々の体調管理や医療機関との連携を図り、職員に周知徹底を図っている。基本的に、家族による受診を支援し、近隣のかかりつけ医の場合は往診をして頂く場合もある。不穏が続いた方を、家族や医師と連携し、根気強く支えることで、穏やかな暮らしを取り戻された方もある。	○	利用者が入院される場合には、事業所や家庭での様子など、情報提供される書式があると、連携しやすいのではないのでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人全体で、指針やマニュアルを整備中である。開設間もないので、これまで該当はなかった。状況の変化に応じて、重症化された利用者には、医療面を含めて、家族の意向を確認していきたいと思っている。	○	法人の指針やマニュアルが確定すれば、全職員で話し合い、現在の体制で出来ることを見極め、独自のものを打ち出して頂きたい。病状の進行具合や予想されるリスクなど、先を見据えた方針を家族と話し合う機会を持ち、不安の軽減に努めて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的や取り扱いは、家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の尊厳を大切にされた言葉遣いや態度については、職員会議でも話題とし、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。プライバシーに関する研修も年間計画に上げられており、実施予定である。	○	写真掲載やビデオ等による個人情報対策が重要になります。口頭で了承を得るだけでなく、文書で確認されることをお薦めします。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し、その日その時の利用者の気持ちを確認しながら、楽しみをみつけ柔軟に対応している。町内会の一員として活躍の場が設けられ、笑顔で生き生きと生活されている姿が印象的である。リビングの棚は、利用者が使う物を、使いたい時に取り出しやすいように、自分達で整理している。排泄は、一人ひとりのパターンを把握し、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。理美容は、行きつけの店に家族と行かれたり、事業所で移動理美容を利用される方もある。		個別の支援を充実させることが課題と考えており、今後に期待したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の主食と汁物は事業所で作り、副食は外注の高齢者向けの宅配サービスを利用している。温めたり、混ぜ合わせたり、盛り付けは、利用者と一緒にやっている。配食には、行事献立やお楽しみメニューもあり、食べたいおかずを選択してもらい日もある。朝、夕の食事は調理専属の職員を中心に作られている。誕生日には、その方の希望される献立にしたり、手作りオヤツの時もある。	○	昼食は、外注を利用する事で職員がゆとりを持って利用者と過ごせている。食事は支援の一貫として、介助する一方でなく、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を食べる姿勢を持って頂きたい。それによって、利用者も気兼ねせず、同じ立場で会話も生まれ、楽しい家族団欒を感じさせる事が出来るのではないだろうか。職員と話し合う機会として頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも、利用者の希望で入浴出来る。利用者の体調や気分に合わせて支援している。希望で夜に入浴されていた方もあった。入浴は職員にとって、利用者とは1対1でゆったりと話が出来る有意義な時間となっている。浴槽のまたぎが困難になられた場合には、併設の事業所にある移動リフトが備え付けられた浴槽が利用出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の誕生会、節分、雛祭り、地区のお祭りなど多彩に季節の行事を楽しんでいる。食事の時間には、エプロンをして調理を手伝われる利用者の姿がみられ、生き生きとした様子が窺えた。ストレッチ体操や風船バレー、棒体操、手作りの旗揚げゲームなど、日常の中に体を動かす時間も取り入れ、身体機能維持にも努めている。夏祭りには、家族や地域の方も来所され、一緒に楽しむことが出来た。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を意識した外出を心がけている。外出は車でドライブが多く、併設事業所と一緒に掛ける事もある。気候の良い時は、歩いて事業所の周りを散歩し、運営推進会議の案内を利用者と一緒歩いて配ったこともある。家族も協力し、自宅で大事に育てていた花が咲いたのを見に帰ったり、墓参りに行ったりしている。利用者と外出の際、自宅に近いからと職員を招待されたこともあった。	○	利用者の意向を汲み取った個別の外出支援が、今後増えることを期待しています。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはない。日頃から拘束しない言葉かけなどを含め、職員間で周知徹底している。年間研修計画でも、身体拘束について計画されており、今後研修予定である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を計画している。1回目は職員のみで通報訓練や初期消火、避難経路の確認を行った。9月には利用者や地域住民も参加しての避難訓練を計画している。	○	訓練後の講評や参加者の感想などは記録として残り、今後の訓練に役立てましょう。昼夜を問わず、あらゆる災害を想定しての訓練を重ねて頂きたい。又、必要な備蓄を話し合い、緊急時の備えをしておきましょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食の配食サービスは、カロリー計算がされており、必要な方には、事業所で利用者に合った形状に食べやすくしている。朝、夕食は、法人内の管理栄養士の作った献立やカロリーを参考に職員が交代で作成している。いつでも管理栄養士の指導を受けられる体制にもある。排泄チェックや食事摂取、水分摂取は記録し、脱水予防や便秘対策に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グリーン系のカーテンが、事業所内を穏やかで優しい雰囲気になっている。ホールは併設の小規模多機能事業所からも見渡せ、交流の場ともなっている。和室や居室の入口も、事業所全体がフラットでバリアフリーとなっている。浴室も広々としている。手洗い用消毒も置かれ、感染予防に努めている。トイレも無臭で衛生的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けである。床にマットを敷いて休まれる方もある。宿泊の際には、その方の自宅に近い配置にして、落ち着いて生活出来る配慮をしている。自分の使っている馴染みの時計や布団などを持ち込まれている。鏡台を持ち込まれた方もあった。	○	全体的に私物が少なく、入居者の個性が感じられる居室とは言えなかった。馴染みの物、古い物が環境づくりに必要な事を繰り返し家族に説明し、協力をお願いします。